



2017 年度

「勉強に役立つ日本語クラス」

報告書



神戸YWCA学院

日本語コース

1. 趣旨

近年、日本の公立学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち（日本国籍も含む）が増えている。義務教育の現場で日本語が分からない生徒がクラスにいる場合、ただでさえ忙しい教師がさらにその子どもに十分に対応することは、日本語指導の面でもクラス運営でも難しい現状がある。

その対応として、県や市からの派遣によるサポーター・システムがあり、教員と児童生徒とのコミュニケーションを支援する「子ども多文化共生サポーター（兵庫県）」や「外国人児童生徒受入校支援ボランティア（神戸市）」による支援が行われている。しかし、支援日数が限られていること、また、支援に携わるサポーターやボランティアは通訳者であって、日本語指導者ではないことが課題となっている。地域によってはボランティア教室との提携による支援体制も整いつつあるが、学習時間は限られている。

子どもたちは、学校等で友だちができれば日本語で簡単な意思疎通ができるようになる。すると、教師、両親などは日本語を習得したと考えがちであるが、これは誤解である。

日本語は“話し言葉”と“書き言葉（いわゆる文章に表れる日本語）”が大きく異なる。友だちとのコミュニケーションができるからといって、“書き言葉”で書かれた教科書の日本語が理解できるわけではない。彼らに必要なのは、日本語を第二言語として構造から学ぶことである。“書き言葉”の文法や語彙を会得してこそ、教科書が理解でき、知識の習得ができるようになる。

神戸YWCAは1950年代から約60年にわたり専門学校として日本語教育を行ってきた実績と、効果的な日本語指導のノウハウを持っている。現在は公益財団法人としてより地域に密着し、多文化共生を実現するための活動を進める中で、地域に暮らす子どもたちの日本語支援にも力を注いでいる。2008年から始まった「勉強に役立つ日本語クラス」（旧：学校に入るための日本語クラス）は、夏休み3週間集中的に日本語の構造を学び、学校の授業につながる日本語を身に付ける機会となっている。資料代のみで授業が受けられ、数学・英語等の科目を学習するために必要な日本語も学ぶ。

また、心理面での困惑を抱えた子どもたちも多い。

多くが両親の都合等で来日しており、彼ら自身が日本に来た理由を納得できていない場合もある。神戸YWCAで3週間毎日同じような境遇の友だちと出会い、共に勉強することで、ここは彼らの「居場所」になる。日本語の理解不足により学校では表情の堅かった子どもが、間違った答えであっても平気で言える雰囲気がある。ほかの皆も同じだから、挑戦しようという気持ちになるのであろう。積極的に参加する彼らからは、「学習することが楽しい」と思っている様子が伝わってくる。

子どもたちのほとんどは、日本に定住し、将来社会に出ていく。その時に、持てる能力を活かし、日本人と共にこの社会を支える人になってほしい。

このような願いから「勉強に役立つ日本語」を実施している。

2. 内容

(1) 対象

学校の勉強のために、基礎的な日本語の勉強が必要な 13 歳から 18 歳くらいの外国にルーツのある子ども（日本国籍を持つ子どもも含む）。

(2) 日時

2017 年 7 月 31 日（月）～ 8 月 18 日（金） 全 14 日（土日・祝日は休み）

日本語：9:30～12:10

科目（数学・英語・地理）：12:20～13:20

(3) 学習内容

クラス1 短期集中型の日本語初期指導。基礎的な日本語を習得することを目的としている。

(6 人)

効果 今年は渡日後間もない子どもが多く、日本語がどんな言語なのかわからない子どもが多かった。まず、ひらがな、カタカナという文字の勉強から始め、会話や文法なども学び、日本語の基本的な構造が理解できるようになった。

クラス2 日本語初期指導、および学習言語の指導。読解力を高めるための基礎作りを行う。

(7 人)

効果 これまで聞いたり、話したりしていた日本語には「構造」があり、動詞、形容詞には「活用」があるということが意識できるようになった。初級レベルの文型を使って自分のことが話せるようになった。

科目 科目指導。科目の用語、指示の日本語などを学び、科目学習につなぐ。

効果 今年度は英語、数学、地理、日本語表現の科目指導を行った。英語、数学ではレベルを 2 つに分け、設問の指示文の理解や、英語や数学そのものへの理解を高めた。

(4) テキスト

日本語教育においては、一般人向け、子ども向け、留学生向けなどの様々なテキストが市販されている。このクラスでは当初、市販のテキストを使っていたが、クラスの趣旨に合うものがなく、2013 年度から自主教材を作成し、毎年改定作業を行ってきた。

子どもが対象であること、短期間で集中的に日本語能力を伸ばす必要があることを考えたとき、市販のテキストを使用すると、一つひとつの文法項目を習得するのに時間がかかり、あっという間に 3 週間が過ぎてしまう。神戸 YWCA のオリジナル教材は、扱う文法項目をコンパクトにまとめており、短期間で効果的に日本語を身につけることができる。改訂作業を重ねてきた結果、今年度はクラス 1 のテキストを 1 冊の本の形にし、コース初日に配布することができた。

また、普通の学校生活では意識されない「日本語の構造」に焦点を当てた学習ができるよう工夫されている。読解教材も、日本語教育の観点から日本語を外国語としてとらえて作成されており、読解基礎力がつく内容になっている。この 3 週間子どもたちが YWCA で学んだ日本語は、学校に戻った後も、きっと彼らに自信を与えてくれるものとなるだろう。

(5) カリキュラム表

	7月31日(月)	8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)
クラス1	名詞文1 自己紹介 文字(あ~そ)	名詞文2 文字(た~ほ)	名詞文3 文字(ま~ん)	時刻の言い方 何時から何時まで 文字(長音)	~を 食べます 他 時制 文字(拗音)
クラス2	自己紹介 形容詞 過去 ~が ほしいです ~たいです	て形1 ~てください 今~ています	て形2 ~てもいいですか ない形1 ~ないてください	ない形2 ~なければなりません ~なくてもいいです	た形1 ~たことがあります
教科	日本語	地理	地理	数学	英語
	8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)	8月11日(金)
クラス1	台風のため休講	~を 食べます 他 何を しますか 文字(拗長音)	行きます、来ます 帰ります 文字(促音)	大きい数字 形容詞文1 文字(ア~サ、ン)	祝日
クラス2		た形2 ~たり~たり します 辞書形1~前に	友だちとの会話1 形容詞1	友だちとの会話2 形容詞2 ~とき	
教科		数学	数学	日本語表現	
	8月14日(月)	8月15日(火)	8月16日(水)	8月17日(木)	8月18日(金)
クラス1	形容詞文2 文字(タ~ハ)	~が 好きです ~が わかります 文字(マ~フ)	~が ほしいです ~たいです ディクテーション	て形 ~て ください ディクテーション	最終テスト やりもらい
クラス2	~とき ~と 思います	なります ~たら	名詞修飾	可能動詞	最終テスト 読解の基礎
教科	英語	読解・作文	読解・作文	読解・作文	修了式・スピーチ

(6) 授業見学会&修了式

8月18日(金)に授業見学会を実施した。

ご寄付をいただいた方々、子どもの所属する学校の先生、ボランティア教室の指導者等 16 人の方々に、「勉強に役立つ日本語クラス」の趣旨説明の後、日本語授業を見学していただき、続いて修了式に出席いただいた。

修了式でスピーチ発表を行った。クラス1の子どもたちは、「毎日何時に起き、何をして、何時に寝るか。どうやってYWCAに通ったか。」など、YWCAで勉強した文型を使って感想を話した。クラス2の子どもたちは、クラスの感想や、自分の夢などを語った。

アンケートでは、「普通の教室で見せる顔とは違い、明るい表情だった(子どもの所属する学校の先生)」「渡日したばかりの子どもたちが熱心に課題に取り組んでいる姿に感動した(寄付者)」「先生と子どもたちの距離がとても近く、間違えても大丈夫という雰囲気の中で授業が進んでいた(寄付者)」などの感想をいただいた。

(7) プログラム修了後の支援 “はっぴー・すくーる” “はっぴー・さぽーと”

「勉強に役立つ日本語クラス」が修了した後も年間を通じて支援を続けている。

月1回、原則第2土曜日に実施している「はっぴー・すくーる」は、クラスを修了した子どもたちが再び神戸YWCAに集う居場所づくりを目指す。通っている学校の様子や進学について、おしゃべりをしたり、みんなでゲームをしたりして楽しい時間を過ごす。

また、毎週土曜日に開催されている「はっぴー・さぽーと」では、苦手な教科を日本語指導のできる教科担当教師と共に学ぶことができる。毎年、夏休み期間中は「はっぴー・さぽーと」は実施していないが、今年は夏休み期間中にも5回実施した。「勉強に役立つ日本語クラス」の昨年度までの修了生と、プレイメントテストの結果によりお断りをした子どもたちに参加を呼びかけた。

このように、「勉強に役立つ日本語クラス」が修了した後も継続的なプログラムを実施することで子どもたちがのびのびと自分らしくいることができる環境づくりを行っている。

(8) 地域とのつながり

「勉強に役立つ日本語クラス」に参加する子どもたちも、神戸YWCA近隣地域のイベントに参加し、地域の方々と交流しつつ、日本の夏祭りを楽しみながら経験した。

○二宮市場 夏祭り

7月22日(土)

はっぴー・すくーるに通う、昨年度までの「勉強に役立つ日本語クラス」の修了生が参加した。神戸YWCAの生徒はポップコーン売場を担当した。

○若菜地区 夏祭り

8月20日(日)

子どもたちはジュース売り場を担当し、盆踊りにも参加した。

(9) 課題

「勉強に役立つ日本語クラス」を実施している、夏休みの3週間以外の時期に来日する子どもへのサポート体制の確立が必要である。現在、既存の神戸YWCA学院日本語コースのレギュラーコースやプライベートレッスンで対応できる子どもは少数であり、また来日時期がさまざまであるため、新しいクラスを設置することも困難である。

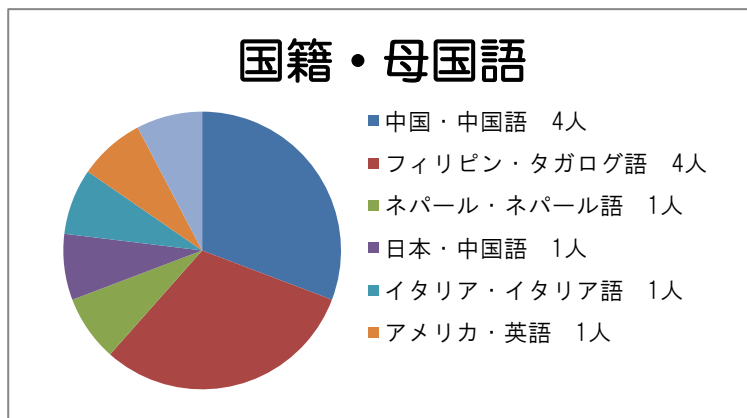
今後も「今すぐに日本語学習支援が必要な子どもがいる」という問い合わせがあったときに、いつでも日本語学習の初期指導ができる体制づくりが必要となる。



3. 参加者の国籍等について

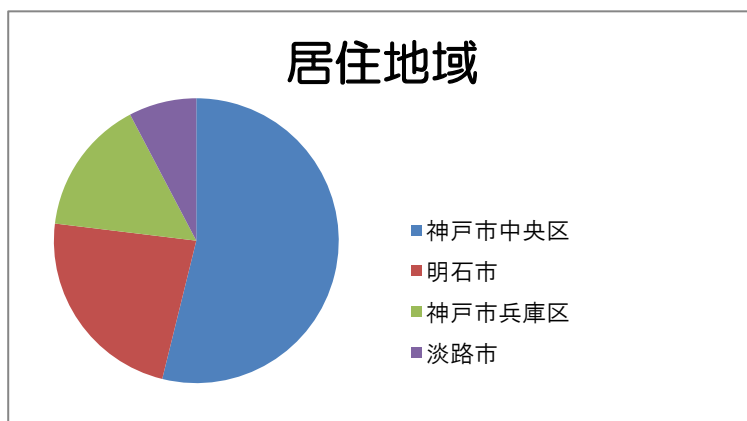
(1) 国籍・母国語

- 中国・中国語 4人
- フィリピン・タガログ語 4人
- ネパール・ネパール語 1人
- 日本・中国語 1人
- イタリア・イタリア語 1人
- アメリカ・英語 1人
- インドネシア・インドネシア語 1人



(2) 居住地

- 神戸市中央区 7人
- 明石市 3人
- 神戸市兵庫区 2人
- 淡路市 1人



全 13 人

(3) 学習者の集め方

- 子どもたちの所属する学校からの申し込み
- 地域のボランティア教室からの紹介
- 兵庫県国際交流協会、神戸市教育委員会などからの紹介
- 保護者からの申し込み
- 「勉強に役立つ日本語クラス」修了生からの紹介



4. 実績

(1) 出席状況

出席率 96% (主な欠席理由は、病気のため。)

(2) プレイメントテストについて

支援の必要な子どもたちをサポートできる効果的なクラス編成のために、プレイメントテストを実施している。

内容は、①ひらがな・カタカナ、②漢字、③文法、④読解 ⑤インタビューの5種類である。

今年度は27人が申し込み、23人が受験した。そのうち13人で2クラスを作った(クラス1は6人、クラス2は7人)。

また、来日して間がなく、日本語がどんな言語かわからない子どもの応募が多かったため、日本語の聞き取りができ、話す力のある14人は断わらざるを得なかった。そのような子どもたちには「夏のはっぴー・さぽーと」への参加を呼びかけた。2人の子どもが参加し、苦手科目や、夏休みの課題に取り組んだ。

(3) 学習者の声

これまで話していた日本語に
ルールがあることに気が付いた！

YWCAでの勉強は、
先生の話す日本語の内容が
よくわかるので楽しかった！

YWCAで勉強して
友だちができて
とてもよかった！

YWCAで勉強した
日本語を
2学期からも
使っていきたい。



(4) 先輩の進学先

神戸YWCA学院日本語コースのレギュラーコース等を経て...

県立国際高校	県立東灘高校	徳島大学
県立神戸甲北高校	県立長田商業高校	甲南大学
県立西宮香風高校	県立芦屋国際中等学校	立命館大学
県立尼崎工業高校	県立芦屋高校	神戸大学工学部
県立舞子高校	兵庫県立大	鳥取大学 ほか

神戸市教育委員会・兵庫県教育委員会が主催する進学ガイダンスでは、毎年、「勉強に役立つ日本語クラス」の修了生が、後輩たちのために高校入試に関するスピーチやアドバイスを行っている。

ご支援ありがとうございます

○寄付

2017年度もご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

寄付合計 **512,548 円** (2018年3月20日現在)

*2017年度寄付目標金額 700,000 円

◇寄付者(個人)

姉川洋一 井上みち子 王子印刷工芸株式会社 木下徳男 表谷淑子 片岡幸子 片山恵
亀井容子 木村秀子 小室こゆみ 斎藤明子 清水威秀 関正敏 高橋智子 武田多美
玉岡昇治 茶本卓子 鶴崎祥子 手島千景 戸田恵子 中尾荘子 長野尚代 中原芙美
名波須美子 西村幸枝 野々村耀 緋田忍 藤本紀子 三浦哲朗 村上由記 山崎恵
矢木富美江 山田稔 ヤマモリサチ 李初容 匿名(1人) 募金箱 (敬称略)【計 342,348 円】

◇寄付者(団体)

株式会社上野商店 宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション
NPO法人フリーヘルプ HSBCグループ (敬称略)【計 170,200 円】

- 「Project HEAT(Help Ethnic Minorities for Adult Transition)」(HSBCグループ)、
「外国人県民・児童生徒の居場所づくり事業」(公益財団法人兵庫県国際交流協会)から
助成を受けて実施しました。

- 後援 神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会 (敬称略)

主な経費について

○講師給

日本語指導のスキルを持つプロフェッショナルな日本語教師により、日本語を第二言語として効果的に指導する必要がある。

○テキスト作成費

子どもたちの短期間での集中した日本語学習のために、長年の日本語教育における経験に基づき、独自の視点で編み出された神戸YWCAオリジナル教材を使用している。

お問い合わせ

神戸YWCA 学院 日本語コース

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10
tel. 078-231-6303 fax. 078-231-6692
e-mail: saito@kobe.ywca.or.jp
www.kobe.ywca.or.jp

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
(Young Women's Christian Association)) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語
や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社
会参画を進め、人権や健康や環境が守られ
る平和な世界を実現する国際 NGO です。

